

秋田県大館市教育委員会

【総人口】 67,596人

(令和5年5月1日現在)

【主担当部局】大館市教育委員会教育研究所
(指導担当、小学校担当)

【主な関係部局】大館市福祉部子ども課
(保育所・幼稚園・認定こども園担当)

【自治体 関連URL】 <https://www.city.odate.lg.jp>

	幼稚園			保育所		幼保連携型 認定こども園		認可外・事業所 内保育施設		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数			1	9	1		8	6	5		17	
園児・ 児童数			19	589	62		812	77	93		2513	

事業実施地域・ 協力園校	【実施地域】 城西小学校区、釈迦内小学校区、花岡小学校区
	【協力園校】 幼：公立（民営）保育所1園、私立幼保連携型認定こども園3園、公立（民営）認可外保育所1園 小：公立小学校3校

架け橋期の カリキュラム開発 会議	【会議委員人数】 11名	【開催数】 年3回
	【委員属性】 公立保育所長1名、私立認定こども園長2名、認可外保育所長1名、公立小学校長2名、保育者養成大学教授1名、 県就学前教育担当課2名、市保育所・幼稚園・認定こども園担当課1名、市小学校担当課1名	

架け橋期の コーディネーター等	【配置人数】 1名
	【経歴】 ・元公立小学校長 ・前幼保小連携アドバイザー

架け橋期の カリキュラム	【開発主体】 ◆市コアチーム（教育研究所、子ども課）
	◇城西小学校区（2私立幼保連携型認定こども園、1公立小学校）
	◇釈迦内小学校区（1公立（民営）保育所、1私立幼保連携型認定こども園、1公立小学校）
	◇花岡小学校区（1公立（民営）認可外保育所、1公立小学校）

カリキュラム開発会議

1 市としての作成方針

- 3カ年の事業を通して、総合的人間力を育成する「大館ふるさとキャリア教育」の理念の基、0歳児から小学校低学年までの教育・保育を充実させることにより「人間的基礎力」の育成を図る。
- 架け橋期の遊びや学びを豊かにするための連続した「架け橋期のカリキュラム」を開発することによって、就学前教育と小学校教育の相互理解推進と、「*共感的協働力」を育成する保育・授業改善の実践・検証を行う。*「共感的協働力」とは、多様な考えを認め共感しながら、個々の能力を結集し協働して新たな価値を創造する力。本市独自の教育理念である「大館ふるさとキャリア教育」において、未来大館市民を育成するために最も重要な力として位置付けている。
- 本市の子供たちはどの園・小学校においても、架け橋期にふさわしい援助・指導、発達に必要な経験が保障されるために、市または小学校区として、3つの育みたい資質・能力で貫く架け橋期のカリキュラムを作成する。
- 各小学校区版カリキュラム作成に当たっては、市共通版カリキュラムをベースに、それぞれの「共通の視点」に応じて加除修正し、「共通して充実を目指す活動・体験」を具体化していく。それぞれのカリキュラムは試作とし、実践しながら修正を重ね、より実態に応じたカリキュラムに完成させていく。

- ☆本市では「共感性」の発達が著しい5歳から7歳を一括りの発達の時期と捉え、独自に「架け橋期」を4歳児～2年生と位置付け、該当年齢・学年のカリキュラムを作成する。（少子化の現状に対応して4歳児・5歳児、1・2年生の複式学級でも取り組めるものとする。）
- ☆幼保小連携は、小学校への適応を目的とすることなく、就学前の学びや体験の延長線上に、発達の特性に応じた学びを積み上げる。
- ☆カリキュラムの実践に当たっては、学びの喜びや楽しさを実感できるよう子供の意欲や期待に応える保育・授業を展開する。
- ☆市の共通する課題として、すべての学習の土台となる「ことば」「言語活動」における伸びしろを十分引き出す取組を位置付ける。

2 成果と課題

- 多様な立場、団体の代表による委員構成にしたことで、市内全園・校、各関係団体への事業の理解、周知が促進された。
- 委員はそれぞれの立場からの意見を述べながらも、最終的には「大館の子供」を共に育てる視点に立ち、事業の必要性や意義を共有することができた。
- 2年間は委員を固定したことにより、全委員が取組の経過や課題を共通理解して協議に参加しており、発展的な協議を行うことができた。
- 研究の経過報告に対して、市としての進め方、モデル地区の実践、全小学校区への波及について専門的な立場から指導助言を得ることができた。
- 本会議の内容については、幼保小連携便り「つなぐ」で、全小学校・園に報告・周知してきたが、第3回は一般傍聴の希望をとり公開会議とした。小学校や園、関係団体から20名の参加者があり、関心の高さが伺えた。傍聴者からは、次年度に向けて意識や意欲が高まったとの声が聞かれた。
- 架け橋期のカリキュラムを小学校の全教科の学習のなかで意識していくために、各教科の年間指導計画に「♡架け橋ポイント」を付記するなど、小学校側での実践を促す手立てについて意見を得ることができた。
- △2カ年はカリキュラム作成を目的に協議を進めたが、3年目はいかに活用するか、教育・保育関係者のみならず家庭や地域にも架け橋期の育ちの重要性を発信していくかに焦点を当てていく。そのため、保護者や市民の意見を取り入れられる人選をし、委員の再編をする。
- △廃園、統合等により、小学校区の組み合わせの変更が生じる場合、各小学校区の完成したカリキュラムをどう活用するか、再編するかを検討する。
- △1園から複数校に就学する際、5歳児の保育の計画に就学予定の各小学校区版カリキュラムをどのように活かせるかを検証する。



一般公開した第3回カリキュラム開発会議（R6.2.26）

架け橋期のカリキュラム

1 架け橋期のカリキュラム開発のプロセス

(1) 研究推進のコアチーム（市全体） ☆研究推進、原案提示、指導助言

- ・「カリキュラム作成研修資料」の配付（一人に1冊）
- ・研究内容の説明～幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会
- ・カリキュラムの枠提供
- ・作成の手順、手引きの提示
- ・モデル地区・各小学校区の協議や交流に参加し、随時助言
- ・市共通版カリキュラムの検証をしながら修正 * 修正部分は赤字で記載
- ・4歳児（4～3月）、小学校2年生（4～3月）のカリキュラム全体計画を作成

(2) 架け橋調査研究委員会（モデル地区） * 年2～3回開催

- ①教職員間の交流により、互いの教育・保育の理解を図る。
 - ・授業参観、授業への参加
 - ・合同の研究協議
 - ・保育参観、保育体験
- ②交流活動を通して、子供の姿の理解を図る。
- ③「架け橋充実期のカリキュラム」を実践しながら修正する。
- ④「架け橋期のカリキュラム全体計画」を完成させる。

(3) カリキュラム作成合同会議（モデル地区以外） * 2～3回開催

- ①「カリキュラム作成研修資料」のモデル地区の作成手順やカリキュラムを参考にする。
- ②「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について研修の機会をもつ。
- ③教職員間の交流により、互いの教育・保育の理解を図る。
 - ・授業参観、授業への参加
 - ・合同の研究協議
 - ・保育参観、保育体験
- ④交流活動を通して、子供の姿、教育内容、指導方法等の理解を図る。
- ⑤小学校区ごとに、夏季休業中にカリキュラム作成合同会議を設定する。
 - ・子供の実態から課題を焦点化し、「共通の視点」「架け橋期に期待する子供の姿」を協議する。
- ⑥2学期に「共通して充実を目指す活動・体験」「交流活動」を協議し、具体的に設定する。
- ⑦冬季休業中に「架け橋充実期カリキュラム全体計画」の様式に各項目を記入する作業を進める。各小学校区の自然や特色、共通する行事を加味する。
- ⑧「共通の視点」「架け橋期に期待する子供の姿」「ねらい」「目指す子供の姿」の整合性をチェックし、各小学校区版「架け橋充実期のカリキュラム全体計画」を完成させる。

本市における架け橋期のカリキュラム作成の進め方

	1年目	2年目	3年目
市共通版	▶架け橋充実期 [5歳児10月～1年生7月] ▶架け橋期 (5歳児4月～1年生3月)	▶4歳児～ 小学2年生 ▶検証・評価	▶改題
モデル地区版	▶架け橋充実期 (5歳児10月～1年生7月)	▶実践 ▶架け橋期 (5歳児4月～1年生3月)	▶実践・検証・ 評価
各小学校区版		▶架け橋充実期 (5歳児10月～1年生7月)	▶架け橋期 (5歳児4月～1年生3月)

カリキュラム作成のための研究組織 R5年度

事業推進	実践・検証	実践・検証
研究推進のコアチーム 子ども課 ● 保育アドバイザー 教育委員会 ● 教育研究所 副所長 ● 架け橋コーディネーター ● 幼保小連携アドバイザー	架け橋調査研究委員会 研究協力校・園 (モデル地区) ● 教務主任 ● 主任保育士 ● 主幹保育教諭 ● 1年生担任 ● 5歳児担任 等	カリキュラム作成合同会議 全小学校・園 ● 管理職 ● 教務主任 ● 主任保育士 ● 主幹保育教諭 ● 1年生担任 ● 5歳児担任 等



架け橋期のカリキュラム

2 架け橋期のカリキュラムの概要

大館市共通版「架け橋期のカリキュラム全体計画」

4 歳児

- A 架け橋期に期待する子供の姿
- B 期のねらい
- C 育みたい資質・能力
- D 交流活動
- E 環境の構成・援助のポイント
- F 家庭との連携

10の姿

5 歳児

小学校1年生

小学校2年生

「共感的協働力」の育成に向け、基盤となる「言語活動」の充実を赤字で加筆、4年間の育ちや学びのつながりを重視しています。

モデル地区版「架け橋期のカリキュラム全体計画」

- 1 架け橋期に期待する子供の姿
- 2 期のねらい
- 3 **小学校区で目指す姿**
- 4 **共通して充実を目指す活動・体験**
- 5 行事・子供の交流
- 6 職員の交流
- 7 環境の構成・援助のポイント
- 8 家庭との連携

「共通の視点」を意識して実践、「交流振り返りシート」で検証、日常的な交流も広がりました。



「カリキュラム集」（R6.3月発行）

各小学校区版「架け橋充実期のカリキュラム全体計画」

共通の視点

「目指す子供の姿」が明確になり、作業を通して教職員の意識の距離が縮まりました。

3 架け橋期のカリキュラムの実践（モデル地区）

(1) 「共通して充実を目指す活動・体験」の具体化

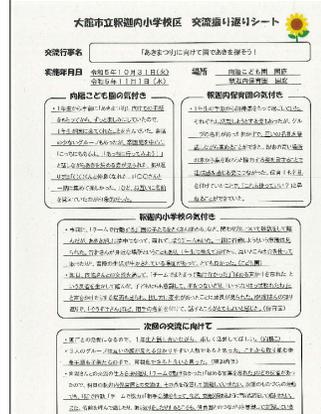
令和4年度の交流活動では、それぞれのねらいを指導案に明示して実施したが、子供同士の会話のやりとりが少ないことが課題となり、4年度後半からは話し合い活動を通して「共通の視点」である思考力や協働性を育成することをカリキュラムに明示した。遊びや学びを振り返り、話し合う活動を「さくらタイム」として、2園1小学校が共通実践をした。

(2) 交流活動の充実と日常化

教職員同士の顔の見えるおつき合いが、子供たちの日常的で気軽な交流活動へつながり、5歳児をお客さんとして招待する交流から材料を集めたり作ったりする過程から複数回交流する活動に発展させた。5歳児は、自分たちの思いや願いを実現するために、考え悩み、試行錯誤する学びのプロセスを共有した。

(3) 実践の振り返りと課題の共有化

日常的な交流が増えたことから、それぞれの反省を「交流振り返りシート」に小学校・園が書き込み、供覧する方法をとり、効率よく確実に意見交換ができ、共通理解が図られた。



気軽に書き込み、意見を共有する「交流振り返りシート」

次年度への展望

1 成果と課題

- モデル地区はカリキュラムの実践により、小学校1年生の授業や5歳児の保育の改善、交流活動の充実が図られた。小学校区ごとの「共通して目指す体験・活動」が具体化され、子供たちが経験したことを生かしたり、1年生の学び方を真似たりしながら、主体的に学び、活動に取り組む姿が見られ、本調査研究の手応えを得た。
- モデル地区以外の小学校区では、モデル地区の先行事例、研修資料「カリキュラム作成資料」を参考に、カリキュラム作成のために互いに子供の様子を見合ったり、教職員が共通の視点で語り合ったりする機会が増え、子供の姿や育ちの捉え方に変化が見られた。特に、小学校教員の意識が変わった。
- 架け橋コーディネーターが全17小学校区の交流活動やカリキュラム作成合同会議に出席し、随時の指導助言により完成までサポートした効果は大きい。また、カリキュラムのひな型や協議の進め方を具体的に提示することで無理なく、全小学校区がカリキュラム作成に取り組むことができた。
- △小学校教職員の理解推進のための研修の持ち方、資料の活用方法を工夫する。
- △「カリキュラム集」を基に複数小学校へ就学する場合の5歳児の教育・保育計画の立て方を例示する。
- △子供たちの変容を保護者がどのように捉えているのか調査する手立てを検討し、把握に努める。

2 最終年度の展望

- ・各小学校区版のカリキュラムを活用しての教育・保育の見直し→園～年間指導計画・月案・週日案への反映
小学校～教科書改訂に応じた教科の年間指導計画・学年経営案への反映
- ・架け橋期のカリキュラム全体計画を基にしたアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの実践展開
- ・架け橋期の育ちと学びの重要性、本調査研究事業の成果を家庭や地域・市民へ啓発
- ・他市町村や県内外の関係団体へ、本市の研究成果を積極的に発信

